

番号	氏名	抱負
111	小林 謙一	地方会員のニーズを集約し、活発な学術活動が行える環境作りを心掛け、微力ながら学会発展に貢献できるよう努力したいと考えております。
112	小林 正人	本学会に所属し、四半世紀が過ぎました。その間、長野県、関東部会、本会とMRI技術の探究に勤しんでまいりました。これまでの経験・活動を生かし、日本のMRI技術の向上と共に本学会の更なる発展のため、微力ではありますが人材育成及び各会の健全で有意義な運営に尽力したいと思います。
113	小松 斉	放射線技術学の向上と発展は、国民の健康維持増進に貢献している。本学術領域における基礎並びに臨床応用に関する研究促進とその交流が欠かせない。また、放射線技術学の知識と新たな技術の安全な提供が重要である。その一助として、東北部会を中心に活動したい。
114	五味 勉	私は日本放射線技術学会の助成関係で国外短期留学、国際研究集会派遣で習得した成果を学会に還元し、現在は編集委員会企画班長、表彰委員、出版委員に任命され、学術事業支援助と会員の資質向上のために全力で取り組んでいます。今後、この経験を糧として学会の諸事業の企画・運営について一層精進するよう努める所存です。
115	小山 修司	当学会には、これまで、研究発表や論文投稿で鍛えていただき研究者として成長させていただきましました。その恩に報いるべく、今後も、それらの活動を通して、学会の進歩・発展に寄与するとともに、後進の育成、会員の技術の向上、中部の学術活動の活性化に貢献すべく、会員の代表として会議での発言をして行きたいと思ひます。
116	齋 政博	放射線技術学に関する研究発表、知識の交換ならびに関連団体との連絡提携を図り、学術の進歩発展に寄与するという学会の目的を達成するために、学会の一会員として、地域からの学会運営に少しでも貢献できればと思う。また、研究活動にも積極的に参加し放射線技術のさらなる発展に寄与していきたい。
117	齋藤 茂芳	英文学術誌の刊行、学術大会の国際化、科研費分科細目への「医学物理学・放射線技術学」の新設により学術団体としての基盤が整いました。この流れを引き続き推進することが本学会の学術的な価値を上げていくことに繋がると考えます。その一方で臨床現場と学会が身近なものになることも重要であり、診療放射線技術学の強みであると考えています。本学会のさらなる発展に寄与できるよう努力させていただきたいと思ひます。
118	坂本 肇	日本放射線技術学会が今後さらに魅力ある学会へと進歩、発展していくためには、多くの会員が学術大会へ参加し、学会誌への論文投稿を積極的に行いたいと思うような運営が不可欠と考える。そのためには、学会による学術活動、各分科会の活性化、地方部会との連携、各種の専門・認定技師分野との協力など幅広い活動が必修となり、その一助を担えたらと考えている。
119	坂本 博	
120	佐々木 幹治	公益社団法人日本放射線技術学会では、地方部会や専門分科会を軸として、学術大会の開催・学会誌の発行のほかに、専門教育プログラムによる人材育成が行われています。その中で、中国・四国地方と中央との総合情報交換の一助となることができれば幸いです。